

上士幌町地域公共交通活性化協議会

令和2年2月5日設置



概要

上士幌町は、北海道十勝管内の北部に位置し、人口約5,000人に対して約700km²の行政面積を抱え、76%を森林が占める緑豊かな町である。基幹産業は畑作・酪農・林業などの一次産業と豊富な資源を生かした観光業である。また、ふるさと納税・移住政策等魅力あるまちづくりが功を奏し、人口減少に一定の歯止めがかかっている。市街地エリアに住民の7割が集中する一方、残りの3割は周辺市街地・農村地区や温泉街の住民であり、交通弱者と言われる子どもや高齢者が存在する。

○地域公共交通の現況

- ・十勝バス(株)(市内2路線)
- ・北海道拓殖バス(株)(市内2路線)
- ・高齢者等福祉バス(4路線)
- ・スクールバス(6路線)

○地域公共交通の課題

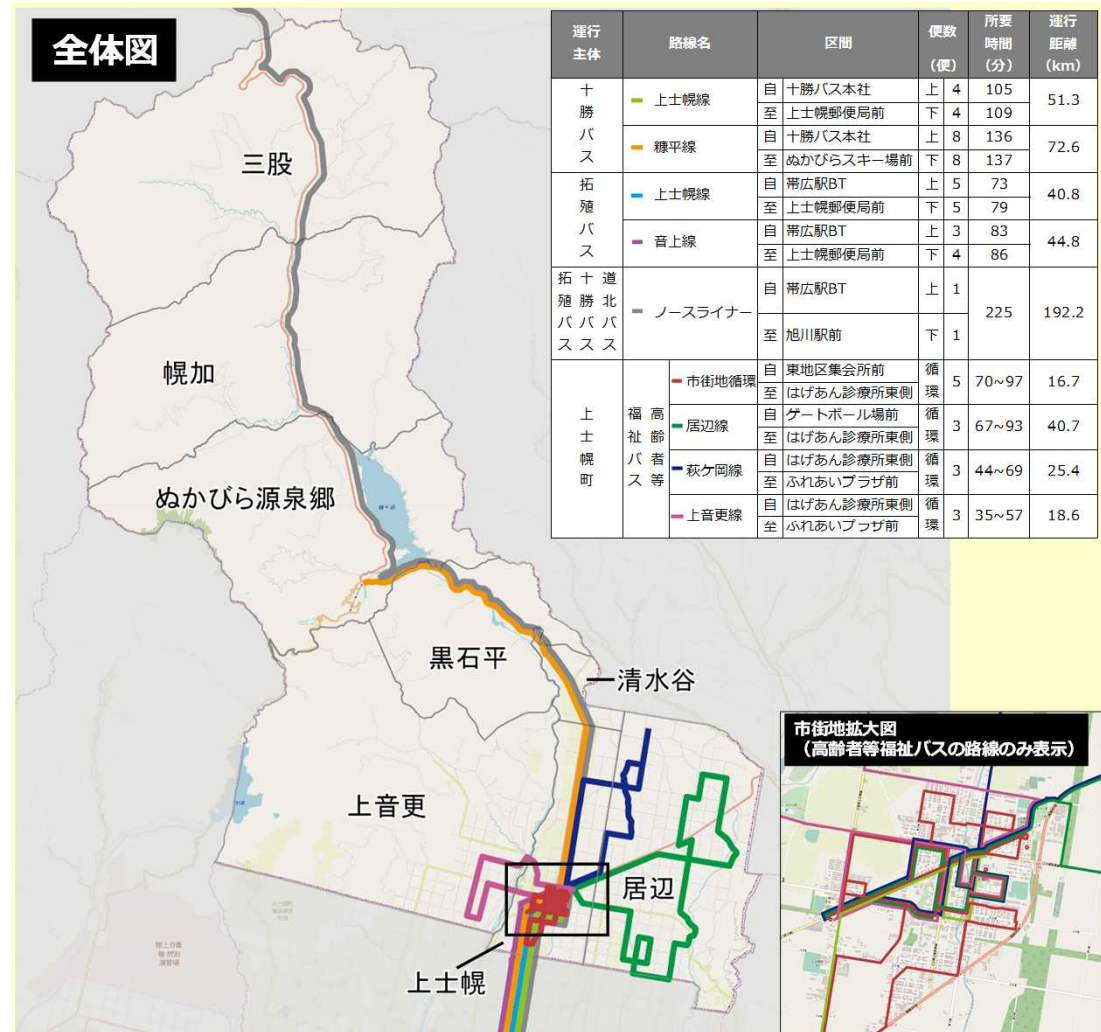
- ・サービス維持のための財政負担や運転手不足
- ・周遊観光等における町内公共交通手段の不足
- ・都市部企業等の長期滞在を見越した移動手段の確保

○調査の主な内容

- ・地域住民との意見交換会
- ・高齢者等福祉バス利用者アンケート調査
- ・多様なモビリティを活用した実証運行の実施

○地域公共交通活性化協議会開催状況

- 令和2年8月18日 第1回協議会を開催
- ・今年度の取り組みと方向性について
- 令和2年10月13日 第2回協議会を開催(書面開催)
- ・実証運行における運用について



上士幌町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

・地域住民との意見交換会の実施

①高齢者等福祉バス利用者へのアンケート調査(令和2年10月5日～9日 回答者20名)

特徴的な意見

- ・100円なら払ってもよいと思っている人が6割(現在無料で運行)
- ・買い物や通院の目的地を運行経路上に加えてほしい
- ・自宅付近もしくは自宅まで迎えに来てほしい
- ・市街地に住んでいるが、家からバス停まで距離があるため乗らない
- ・病院目的で上士幌クリニックを受診すると、平均3時間診察終了までかかるため、帰りのバスに間に合わない

→**町民の高齢化が進行する中で、自宅付近で乗り降りできる工夫、買い物や通院先にアクセスしやすい運行方法の検討が必要**



②町民意見交換会～ぬかびら源泉郷地区(令和2年12月17日 参加者6名)

特徴的な意見

- ・将来的に免許返納の必要性について認識を持っている
- ・バス運賃が高い(片道1,100円)便が少なく、市街地で長時間滞在しなければならない
- ・交通が不便なため、転居する住民がいる
- ・観光地をつなぐ移動手段がなく、周遊観光を断念している観光客がいる

→**高齢者福祉バスのように無料若しくは安価で乗車できる交通手段、市街地との往来機会増加、観光地域を周遊できる仕組みの検討が必要**

③町民意見交換会～市街地地区(令和2年12月21日 参加者8名)

特徴的な意見

- ・福祉バス等において自由乗降区間があると気軽に活用できる
- ・福祉バスを補完するタクシーの有効活用(交通資源の活用)
- ・町民が乗りやすいコミュニティバスとしての運行
- ・屋外のバス待合環境の改善

→**バス待合環境の改善、自由乗降区間の創出、バス路線の継続的な見直しの検討が必要**

④町民意見交換会～農村(居辺・北門地区)(令和2年12月下旬アンケート配付 回答者29名)

特徴的な意見

- ・9割以上は公共交通を利用していない(バス停まで遠い、歩ける距離にない)
- ・自宅付近もしくは自宅まで迎えに来てくれる公共交通がないと利用できない
- ・人が乗るだけでなく、荷物等を自宅付近あるいは自宅まで届けてくれる公共交通があるとよい

→**自宅付近での乗り降りができる工夫、買い物時の荷物を届けてくれる運行方法の検討が必要**



上士幌町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

・多様なモビリティとICT技術を活用した実証運行の実施(※経済産業省事業を活用)

①高齢者等福祉バスのデマンド化による利用促進(令和2年10月2日～12月29日)

- ・利用頻度の低い郊外線2路線(萩ヶ岡線・上音更線)をデマンド化し、事前予約式にすることで空き時間を可視化するとともに、沿線住民の利用拡大を図る。
- ・高齢者にタブレットを配布し、使いやすさにこだわったUI設計のプラットフォームで高齢者自身がバスを予約し利用する。
- ・利用実績

| 定時定路線 | | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 増加率 |
|--------|------|---------|--------|--------|---------|------|
| 2019 | 運行回数 | 56回 | 52回 | 48回 | 156回 | - |
| | 利用人数 | 8人 | 6人 | 8人 | 22人 | - |
| | 稼働時間 | 11時間24分 | 7時間57分 | 5時間56分 | 97時間17分 | - |
| デマンド運行 | | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 増加率 |
| 2020 | 運行回数 | 20回 | 13回 | 14回 | 47回 | -70% |
| | 利用人数 | 25人 | 19人 | 31人 | 75人 | 241% |
| | 稼働時間 | 9時間00分 | 5時間00分 | 6時間40分 | 20時間40分 | -79% |

昨年度の高齢者等福祉バスの運行実績と比較した場合、デマンドバス運行では、稼働時間と運行回数が大幅に削減。



→デマンドバス運行と定路線運行を比較した場合、運行回数や時間の削減と利用人数増加が図られたことから、農村部に適した運行であることが実証された

②高齢者等福祉バスの空き時間可視化による有効活用(令和2年11月5日～12月24日の毎週木曜日)

- ・①の運行により可視化された空き時間を利用し、町内のスーパーマーケットと協力し、高齢者が購入した商品を福祉バスに貨客混載することで、福祉バスの空き時間や空席を利用した副収入を確保する。
- ・利用者の多い市街地循環線の増便を検討する。
- ・利用実績

| 日付 | 件数 |
|--------|----|
| 11月5日 | 5 |
| 11月12日 | 4 |
| 11月19日 | 3 |
| 11月26日 | 11 |
| 12月3日 | 3 |
| 12月10日 | 4 |
| 12月17日 | 10 |
| 12月24日 | 6 |
| 合計 | 46 |

配送実績 46 件中
市街地 42 件
農村部 4 件



→空き時間可視化によって、高齢者等福祉バスによる商品配送が可能となり、空き時間の有効活用が実証された

上士幌町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

・多様なモビリティとICT技術を活用した実証運行の実施(※経済産業省事業を活用)

③自家用有償制度による移動手段確保(令和2年11月1日～12月27日の毎週日曜日)

- ・自家用有償制度による移動手段を導入し、タクシーが配車できない場合に備え、タクシーとバスの間程度のサービスレベルの移動手段を用意することで実験を行う。
- ・料金体系～ ・市街地内(2km以内)300円 ・市街地⇄農村地域(10km以内)1,000円 ・市街地⇄ぬかびら源泉郷3,000円
- ・利用実績

| 日付 | 件数 |
|--------|----|
| 11月1日 | 11 |
| 11月8日 | 4 |
| 11月15日 | 4 |
| 11月22日 | 2 |
| 11月29日 | 4 |
| 12月6日 | 9 |
| 12月13日 | 3 |
| 12月20日 | 14 |
| 12月27日 | 10 |
| 合計 | 61 |

利用者の意見

腰が悪くタクシーを使うことがあるがタクシー料金を考えると無理して歩くこともある。前にも利用して300円は嬉しかった。サービスが本格運用されたら必ず使う。

これまでは、周りの人に声をかけてもらったり、お願いして乗せてもらって移動していた。いままでは日曜日に頼むのは申し訳ないので、あまり外出できなかった。300円だと気軽に出かけることができるのでうれしい。来週で終わりは残念。

以前利用して、とてもよかったので利用した。お風呂で会う友達にもおすすめしておいた。今度は、近所に住む友達と一緒に利用する予定。

→**現在と同じ金額で本格的な運行が始まった場合、利用したいと回答した人は7割以上いたことから、交通サービスとしてニーズがあることが実証された**

④物流事業者による客貨混載(令和2年12月8日～12月18日の火・木・金曜日)

- ・物流事業者の配送車で集荷等に合わせ旅客輸送を実施する“客貨混載”の取り組みを行う。
- ・高齢者等福祉バス郊外線の沿線に住む高齢者を対象とし、①の実証運行と共通のプラットフォームから予約し乗車する。
- ・物流業者の配送車の空きスペースを活用し輸送する。
- ・利用実績

6日間の運行で、延べ5名利用

→**多様なモビリティの一つとして、物流事業者による移動手段の確保が実証された**



上士幌町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針

基本方針～元気まち上士幌を支え、町民のおでかけ・人と人とのつながりを作る公共交通網の構築

※基本方針の実現に向け、本町の地域公共交通の方向性に基づく事業体系を以下の通り整理

方向性① 利便性の高い町内交通の実現～町民のおでかけの促進～

本町の生活交通の利便性向上に向けては、市街地内における公共交通サービス水準の向上及び郊外部等を運行させている高齢者等福祉バスの利用実態を踏まえた予約運行型への見直しのほか、町内交通と中核都市である帯広市と本町を繋ぐ民間バス路線との接続性の確保を行っていくことが必要である。これら町内公共交通網の見直しを継続的にしていき、町民が自動車を手放しても安心して移動できる環境を整備することで、安心・安全な「町民のおでかけ交通」の確保を行う。

また、令和元年度から本町でも取り組んでいるMaaS等の新モビリティ事業について、最新技術の発展状況を鑑み、町内交通への導入を検討する。

- 事業①: 利用者意向を踏まえた市街地循環バスの運行
- 事業②: 農村部生活交通の検討
- 事業③: 町内交通間や広域交通への接続性の確保
- 事業④: モビリティシステム (ICT技術) の発展への対応



【上士幌町交通ターミナル】

方向性② 多様なモビリティを活用した町内滞在者への支援

現状、本町の交通結節点である上士幌町交通ターミナルから町内各観光施設への移動手段が十分に確保されていない区間も存在しており、観光による地域活性化が不十分であることが想定される。

そこで、本町に年間35万人程度が訪れる観光客や短期・長期滞在する関係人口の方が、町民同様に便利に移動できる足づくりを積極的に行い、コロナ禍以降にも対応できる観光交通の構築を行い、観光による地域活性化を推進していくことが必要である。

また、生活交通同様に令和元年度から本町でも取り組んでいるMaaS等の新モビリティ事業について、最新技術の発展状況を鑑み、観光交通へも導入を検討する。

- 事業⑤: バス交通やタクシー、カーシェア、シェアサイクル等の多様なモビリティを組み合わせた町内滞在者への支援
- 事業⑥: モビリティシステム (ICT技術) の発展への対応 (再掲)

上士幌町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針

方向性③ 地域活性化に寄与する利用促進策の展開

人口減少やモータリゼーションの進行に伴い、町内を運行する公共交通の利用者数は年々減少傾向であり、現状の公共交通利用者だけでは、現在の公共交通体系はもちろん、見直しを行っていく公共交通体系の維持も困難になることが想定される。

また、方向性①及び②を基に展開していく事業により、生活交通及び観光交通で利用しやすい公共交通網を整備していくとともに、同時並行的に、町民等が積極的に公共交通を利用する意識の醸成を図っていくことが重要である。

事業⑦: 町内を運行する全てのモビリティを網羅した公共交通マップの作成

事業⑧: 乗り方教室や試乗会、利活用ワークショップの実施

事業⑨: 町民等が利用したくなる運行形態及び運賃施策の検討・実施

事業⑩: その他上士幌町で住み続けたいと思える生活行動と公共交通が連携した仕組みづくり

(貨客混載や住民共同経営による夜間タクシー等)

方向性④ 持続的な公共交通の確保・維持に向けた体制の強化

基本方針の実現にあたっては、上記の方向性に基づく事業の実施や変化する社会情勢等との適合性を検討・評価し、柔軟に本計画の見直しを行うことが重要である。そこで、本計画に係る協議を行ってきた「上士幌町地域公共交通活性化協議会」において、PDCAサイクルによる推進事業の実施・評価を行う必要がある。

事業⑪: 上士幌町地域公共交通活性化協議会の機能強化

上士幌町地域公共交通計画(案)を策定し、令和3年～7年度の5カ年の計画期間において、上士幌町地域公共交通活性化協議会にて事業の評価・検証・見直しを柔軟に行い、方針に即した公共交通網の構築を推進する。

●事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

・事業は、計画どおり適切に実施されているものとする。

・今後、公共交通事業の収支率や公的資金投入額などの事業効率の改善等についても検証していくことをご検討いただきたい。